

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 6 月 19 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071201000		
法人名	医療法人 海洋会		
事業所名	グループホーム ほんわかハウス新館		
所在地	福岡市西区今宿青木792番地の4 〒819-0162 (電話) 092-805-8800		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年6月19日	評定確定日	平成21年7月24日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道近くの住宅街に位置し、地域の高齢者が在宅で穏やかに生活できる場所を提供したいとの思いのもと開設されたホームである。法人全体で医療、介護を通じて地域貢献に熱心に取り組んでいる。利用者一人ひとりが主役となる日々を過ごせるように「できること・できないこと」に着眼した生活援助計画書を作成し、利用者一人ひとりの自立支援に向けた取組みが行われている。「ここにいたい」、「毎日が楽しい」、「ここで暮らしたい」、そう感じるホームを目指し、管理者をはじめ全職員が熱心に日々のケアに取り組んでいる。利用者自ら巻寿司を作るなど、利用者の手作りの数々が利用者、職員の心に充実感をもたらしている様子が伺えた。また、七夕祭りや運動会、敬老会などの地域の行事に利用者が参加するなど、地域交流も図られている。開設して5年目を迎え、今後の発展が大いに期待できる事業所である。

【情報提供票より】(平成 21 年 6 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 5 月 1 日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	17 人	常勤	15 人	非常勤	2 人	常勤換算	16 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての～	1・2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000～38,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	○ 有(家賃3ヶ月 円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償却の有無	有	
	○ 無		無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,270 円程度	

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

登録人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名				
要支援1	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・あおいクリニック ・別府歯科
---------	-----------------

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について、運営推進会議時や家族会にて報告を行い、職員へはミーティング時に改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で、公民館活動への参加が行われるなどの成果がみられる。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の受審にあたり、職員全員で評価項目の内容を確認するなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 自治会長、老人会長、民生委員、地域包括支援センター職員、地域住民、家族などを招いて2ヶ月毎に開催している。運営推進会議時に、ホームの活動状況についての報告や災害時に地域の協力体制を得るための働きかけが行われ、食事を催しながらホームの食事についてのアドバイスをもらうなど、運営推進会議を活かした取組みがある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の面会時などを通じて、個別アルバムを提示しながら利用者の日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。毎月担当職員が個別に手紙を送付し、活動状況や行事報告などについて写真を掲載して報告を行うなどの取組みがある。年に1回家族会を開催し、家族との交流を深めながら要望や意見を表出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。面会時の何気ない言葉や些細な態度から、家族の思いの把握に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 公民館でのいきいきサロンや自治会の七夕祭り、運動会、敬老会、近隣の教会の行事に利用者が参加したり、ホーム行事の餅つきに老人クラブの方が参加するなど、地域との交流の機会を捉え、地域とのかかわりを意識した取組みがある。日々の散歩時の声かけやホームでついた餅を近隣の方に配るなど、自然な形で地域交流への取組みがある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「医療や介護を通じて、地域に貢献します。」という 法人理念に基づき、常に地域と利用者とのかかわり を重視しながら、自治会の七夕祭りや運動会への利 用者の参加など、地域交流に努めている。また、「… 入居者の能力が最大限に活かされ、日々の生活によ り喜びと自信をもって頂けるよう…」といった法人内 の複数のグループホームに共通した理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、自然に目に入る工夫が ある。業務の合間に常に理念に立ち戻り、確認して いる。生活援助計画書の作成や日々の業務の中で、職 員間で理念と照らし合わせて検討したり、月1回のミー ティングを通して、理念に基づいたケアの内容につい て協議するなど、理念の実践に向けた取り組みがあ る。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	公民館でのいきいきサロンや自治会の七夕祭り、運 動会、敬老会、近隣の教会の行事に利用者が参加し たり、ホーム行事の餅つきに老人クラブの方が参加 するなど、地域との交流の機会を捉え、地域とのかか わりを意識した取り組みがある。日々の散歩時の声か けやホームでついた餅を近隣の方に配るなど、自然 な形での地域交流への取り組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、運営推進会議時や家族 会にて報告を行い、職員へはミーティング時に改善に ついての協議を行うなど、質の向上への取り組みがあ る。この過程で、公民館活動への参加が行われるな どの成果がみられる。今回の受審にあたり、職員全 員で評価項目の内容を確認するなどの取り組みがあ る。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、老人会長、民生委員、地域包括支援センター職員、地域住民、家族などを招いて2ヶ月毎に開催している。運営推進会議時に、ホームの活動状況についての報告や災害時に地域の協力体制を得るための働きかけが行われ、食事会を催しながらホームの食事についてアドバイスをもらうなど、会議を活かした取り組みがある。		
(1) 組織概要	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの運営などについて、行政への相談を行うなど、行政との連携が図られている。地域包括支援センターへ運営推進会議への参加の声かけや参加が行われているが、運営推進会議への実質的な参加が少ない。	○	運営推進会議の会議録の継続的な報告や行政の出前講座の活用などを通じて、行政や地域包括支援センターへの働きかけを行い、更なる連携が図られることを期待します。
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ミーティングにて成年後見制度や日常生活自立支援事業について勉強会を行うなど、職員全体で制度について学ぶ取り組みがある。運営推進会議や家族会にて制度に関する概要や利用方法などについてのパンフレットを配布し、説明を行うなど、活用に向けての支援が行われている。	○	家族会やホーム通信などを利用して全家族への定期的な情報提供の機会を設け、利用者、家族が活用できるような支援を期待します。また、運営推進会議などを利用して、地域包括支援センター職員から制度についての講義をしていただくなど、繰り返しの制度の説明を行ない、職員全体の一層の制度の理解を促す取り組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や家族会などを通じて、個別アルバムを提示しながら利用者の日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。毎月担当職員が個別に手紙を送付し、活動状況や行事報告、行事案内などについて写真を掲載して報告を行うなどの取り組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会を開催し、家族との交流を深めながら要望や意見を表出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。面会時の何気ない言葉や些細な態度から、家族の思いや意向の把握に努めている。出された意見は、内容に応じてその場での回答や職員間で話し合い、ケアに活かすなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が働きやすい環境を整え、職員全体のコミュニケーションを図り、自由に話し合える関係づくりに努めている。日頃からユニット間の交流を深め、利用者との馴染みの関係が保たれる様な体制を整えている。新しい職員が入職した際は、2週間程度は日中のみの勤務とし、2週間はリーダーがともに夜勤を行いながら指導にあたるなどの支援体制がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用に関して、年齢や性別などによる制限は行っていない。手先の器用な職員がホーム内の壁飾りの品々を作るなど、職員の長所や特技を活かし、やりがいを持って勤務していけるように支援している。衛生係、献立係、装飾係など、各係の運営を担当職員に行ってもらい、自主的に活動する工夫がみられる。外部研修や資格取得を目指す職員については勤務調整を行い、リフレッシュ休暇が取れるように職員間で協力するなどの支援体制がある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>地域での人権学習に職員が参加し、ミーティングにて受講報告会を行うなど、職員間で人権教育・啓発活動について学ぶ取組みがある。また、日々のケアを通じて、人権の尊重について気づきがあれば、ミーティングにて検討し指導を行っている。</p>		
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月、法人内のグループホーム全体での各種研修に全職員が参加するなど、スキルアップを図る取組みがある。外部研修については、回覧にて参加を募ったり、研修内容などを考慮し、管理者が参加を促すなどの取組みがある。ミーティングにて受講報告会を行い、職員全体で知識の共有に努めるなどの取組みがある。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協議会の研修を通じて、他事業所への見学や職員間の意見交換および交流が積極的に行われている。また、ホーム行事の餅つき会などに他事業所の利用者や職員が多数参加するなど、様々な機会を通じて事業所間での交流が図られ、質の向上に向けた取組みがある。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族との面談にての聞き取りやホーム見学を行うなど、本人の様子を見ながら安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取り組みがある。入居直後は、状況に応じて家族への面会をお願いし、利用者への頻繁な声かけを行い、かかわりを多く持つなど、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるような支援を行っている。		
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者寄り添い、日常のかかわりの中で、巻寿司の作り方や季節ごとの習慣、行事など、様々なことを学ぼうとする取り組みがある。また、利用者が他の利用者へ声かけする場面が見受けられたほか、自然に職員へ感謝の言葉をかけるなど、互いを尊重し共に支えあいながら暮している関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談や家族の面会時、家族会などを通じて、家族の思いや希望の把握に努めている。利用者との日々のかかわりを通じて、利用者の何気ない言葉や行動、表情などから利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取り、毎月のミーティング時に職員全員で検討を行い、生活援助計画書へ反映させるなどの取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に把握した生活歴や希望、家族の意向を把握し、日々のかかわりの中でセンター方式の「できること・できないこと(食事、入浴など)シート」を活用している。把握した情報をもとに、担当職員が生活援助計画書を立案し、ミーティング時に職員全員で検討を行い、生活援助計画書へ具体的に反映させるなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	状況の変化時や家族の希望時、または6ヵ月毎にケ アカンファレンスを開催し、見直しシートを活用して内 容の評価、検討及び再作成が行われている。利用者 の情報交換や心身状況の変化について申し送りにて 確認を行い、全職員による月に1度のケアカンファレン スにて、ケアプランチェック表をもとに本人の状況や様 子、支援の方針などを職員全員で検討している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携体制を活かした協力医療機関による往診 や受診介助、入院先の医療関係者との連携支援、利 用者の希望による美術館や博物館への外出支援、親 族宅への外泊支援など、利用者の状況や家族の要 望に応じて、柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時にかかりつけ医の継続と協力医療機関の利 用について相談し、本人・家族の意向に沿って支援し ている。ホーム協力医との連携により、月1回の往診 や月1回の受診介助、皮膚科、整形外科などへの受 診介助、ホーム職員の看護師による利用者の状態把 握及び状態に応じた協力病院への受診の支援があ る。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化や終末期における方針について説 明し、利用者側の意思をふまえた上で、家族の意向 を書面で確認している。日常の何気ない会話を通じ て、利用者の意向を把握し、記録を行うなどの取組 みがある。状況の変化に応じ、家族、主治医、管理 者を交えて協議を行い、職員間で方針を共有する取 組みがある。ホームでの看取りの事例がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日常のかかわりの中で常に尊厳を持った支援を心 がけている。利用者のできること、できないことを見極 めたうえで利用者への言葉かけに配慮している。常に 利用者一人ひとりに寄り添い、タイミングを見計らっ てのさりげない声かけや視線を合わせて笑顔で傾聴す るなど、利用者の自尊心やプライバシーに配慮した対 応が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある ものの、そのときどきの気持ちや利用者の体調に配 慮しながら、決して無理強いせず、食事や入浴のタイ ミング、食事のペースなど、利用者一人ひとりのペ ースを尊重し支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	昼食は法人内の施設で調理した食事を提供してい る。朝食や夕食は栄養バランスなどを考慮した食事を ホームにて提供し、野菜の下ごしらえや料理の盛り付 け、下膳など、利用者の出来る範囲でかわる取組 みがある。利用者と職員と一緒にテーブルを囲み、 和やかな雰囲気の中でゆったりと食事を楽しめるよ うな工夫がある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	毎日の入浴や夕食前後の入浴が可能であり、利用 者の体調に配慮しながら、利用者一人ひとりの希望 に応じて柔軟に対応している。利用毎にお湯を入れ 替え、入浴剤の使用や湯温の調整など、希望に沿っ て支援している。あまり入浴を好まれない方には、無 理強いことなく、タイミングを見計らった声かけ を工夫するなど、入浴を楽しめるように工夫している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	巻寿司を作ったり、野菜の下ごしらえや料理の盛り 付け、洗濯物たたみなど、利用者一人ひとりの役割等 が自然にできており、利用者の出来ることや生活歴な どを把握した上での支援がある。また、地域ボラン ティアの歌の会で利用者が童謡を歌ったり、買い物、 ドライブなど、利用者の楽しみごとを把握した上での 働きかけがみられる。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	外食や花見、神社参拝、野球観戦、日々の散歩、買 い物など、利用者の状況に応じてできるだけ戸外に 出かける支援が行われている。個別の希望に沿っ て、美術館や博物館への外出、利用者の親戚宅への 外泊、ご家族との個別外出、買い物、外食など、利用 者の希望やその時々状況に合わせた外出の支援 がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。職員は利用者の様子 をきめ細かく観察・見守っており、さりげなく声をかけ たり一緒について行くなど、利用者の自由な暮らしを 支える対応と安全面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回、消防署や消防団の指導による避難訓練、 避難経路の確認、消火器の使い方などの指導が行 われている。運営推進会議や日々のかかわりを通し て、近隣住民の訓練への参加がみられ、近隣への協 力を得るための働きかけを行う取り組みがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	昼食は法人内の管理栄養士が立てたメニューを提 供し、朝食や夕食は栄養バランスなどを考慮した食事を ホームにて提供している。利用者毎に毎回の食事を 記録し、水分摂取量が少ない利用者へは、個別に チェックし、頻りに水分摂取を促すなど、栄養摂取や 水分確保への支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花が飾られ、リビングは程よく採光されている。ゆっくり過ごせるように和室が隣接し、ソファで自由に横になることもできるなど、心地よい空間づくりへの工夫がある。リビングや廊下には、季節感のある飾りつけや利用者の手作り作品が飾られ、テーブルの上には季節の生花が飾られるなど、アットホームで心和ませる雰囲気を醸し出している。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、クローゼットや洗面所が備え付けられており、家具やテレビ、鏡台、回転式椅子などの馴染みの物が持ち込まれている。和室やフローリングの居室にカーペットを敷いたり、寝具においてもベッドや布団など利用者の生活習慣や身体状況に応じて安全で使いやすいように配慮されている。		

は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号